



古今蒙雅抄

九十
韜旅





古今和歌集卷第九

羈旅歌

もろこゝみづ月をみても

安倍仲麻呂

あまの原ありともみても月をみても
けさるもももろこゝに物をうり
はらうとらるるもあまの月をみても
まうしてこゝろもみても月をみても
たらるるもみても月をみても
くららありともみても月をみても
人もあまの月をみても月をみても
乃らあまの月をみても月をみても



まゝのまゝに

あつてとちねとてうらやましく思はれり
か乃とてくまのりやの例と云。仲磨の元正天皇
の御宇雲垂天皇の八月遣唐使大伴山麿の御
て学問乃をあふ入唐とて性怒敏けりて平
たくちりみまねと有物にとてりて官あり
唐大曆の年と日本書紀の元とあつて時
七十二名とて朝貢と改む。集乃御書
の御書とて。歸朝せんといふ。又思はれり
ちりて終つて唐とて入唐とて。廿二年
唐の君位とて九
唐乃にりり

たつともありあつてり。乃とて
のうとて。ありとて。振離とて。振放
とて。ありあつてり。乃とて。あつてり
乃とて。ありあつてり。乃とて。あつてり

あつてり。乃とて。あつてり。乃とて。あつてり

小野をりし乃とて

あつてり。乃とて。あつてり。乃とて。あつてり
あつてり。乃とて。あつてり。乃とて。あつてり
あつてり。乃とて。あつてり。乃とて。あつてり
あつてり。乃とて。あつてり。乃とて。あつてり

仁明乃涉時承和のま遣唐使よとられぬが一乃
あひよれしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
たり。嘉祥元年大脚國仁渡唐乃時也。一様涉既。これ
なる海より八十時とす。海海よも出帆しむ
あはれしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
海しむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
かたしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ

後人不知

初めくくすむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
却をあらしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
皆山と名あはしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
とせり。瓶系泉河鹿背山。歳をさしむらひしむらひしむらひしむらひ

ふらふらむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
ほれしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
けえきあしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ

あのみしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
海しむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
おのみしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
らふらふしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
ゆらゆらしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
ふらふらしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
人あはしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
海しむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ
とせり。種く乃然しむらひしむらひしむらひしむらひしむらひしむらひ

つとまりねとこまらりしりしはなほつとまりはほり
てまねと女ひらりまへるまゝあるまゝ
るるるるるるるるるるるるるるるる

おしほるは打とひてたへるるるるるるるるるるる
教まゝでいふまゝとらひたさるるるるるるるるるる
女とらひまゝいふまゝのまゝとらひるるるるるる
紙身にまゝいふまゝとらひるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつらひるるるるるるるるるるるるるるるるるる

あふふふつわそよつひゆくくかりしあふふふ
うつふふふふふふふふふふふふふふふふふ
つひふふふふふふ

在原重平物語

あふふふふふふふふふふふふふふふふふ
かりふふふふあふふふふふふふふふふふ
にふふふふふふふふふふふふふふふふ
一ぱふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

紀乃ありは

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
とふふふふふふふふふふふふふふふ
を宿ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
海あり

朱雀院乃ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

朱雀院を二条朱雀乃ゆふふふふ。ゆりぬる海門は
院よゆふふふ。寛平はふふふ事也。六十二代国乃
朱雀院也。

すうふふの物語

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

古今和歌集卷第十

物名 隠歌也。うき歌よきあり

うき歌

菟原とゆき船信

花乃瀧よそらちうき歌よきとれも此のうき人
我のうき心よそらちうき歌よきとれも此のうき人
とれも此のうき心よそらちうき歌よきとれも此のうき人
菟原とゆき船信

うき歌

うき歌よそらちうき歌よきとれも此のうき人
我のうき心よそらちうき歌よきとれも此のうき人
とれも此のうき心よそらちうき歌よきとれも此のうき人
菟原とゆき船信

流のうはたむらわたりをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
玉乃^{たまの}まなむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

五

土生^{つちうま}なむらうりて也

袂^{たもと}よりりたるむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
ち^ちなむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

うめ

清人^{きよひと}石^{いし}なむらうりて也

あ^あむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
穴^{あな}夢^{ゆめ}目^めおはしたむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

ち^ちもむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
紫^{むらさき}葉^はあよ梅^{うめ}とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

か^かよむらうりて也

は^はなむらうりて也

風^{かぜ}吹^ふ毎^{まい}ふらむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

風^{かぜ}吹^ふ毎^{まい}ふらむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

お^おりて^{りて}種^{たね}芽^めのむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
ら^ら花^{はな}乃^のむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

花^{はな}乃^のむらうりて也

と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也
と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

と^とむらうりてをそむわすむひりつ神よなむらうりて也

むしりしとむれ木のうみ善は神れひさるゝとさる人ほひ
柏を葉乃まろろれむくん世といふ。又定家公に感書よ
交野乃まじ本はくくも成りゆとあり

やこころこの木 清人石知

秋さよぬとやまろろ乃養ふふくちうん風のふむ
娘いまもくちやまろろのまろくちうん風のふむ
ふちうんと也

あめひうは

かろろあめひうまねちう人さくはくくちうん命
く種あめ目のまもふありゆく人をくはくく
思ひてまもふまろろ。只旦とく。是養植ちり。葛
フーちう

人の海へちよあめ白乃まろろ我はくちうもあひら
人のとまろろくちうあ目のちうたて種とをく
くはくくまろろ人のあひらくちう也

修正盗取

ちうぬれまろろあめまろろもまろろまろろまろろ
おて後いあめまろろあめまろろまろろまろろまろろ
——くまろろまろろまろろまろろまろろまろろまろろ
丹也山にまろろまろろまろろまろろまろろまろろ
とまろろ源氏にまろろまろろまろろまろろまろろ
まろろまろろまろろまろろまろろまろろまろろ
前也。一後くまろろまろろまろろまろろまろろ
牆藤とま

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

朱雀院乃女弟<sub>の</sub>花<sub>の</sub>花<sub>の</sub>花<sub>の</sub>~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

うはろひわらふありとくくくくくくくくくくくくくくくく  
よ。はらふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

我者乃むやこもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
必くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
於膽花也。意一よ屋をよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
家つら於膽乃くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おんが

後人不知

あるとみくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ありくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
かひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふこ

やまのくくくく 夫田新

打つまにやうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
るくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
牽牛花を教生必也。權花ハ款府よ。權よ若く白あり。一名  
日及と云。字書よ。權ハ藤也。毛詩和訓よ。呼藤曰朝顔  
と云ふ。りて日中乃俗。權藤共よ。牽牛花と云。大なる  
信也。宋人信云。權花離下。占秋事。早ク有。牽牛上。行







るまゝと也。うらまゝといふ。そは又古今三種乃秘事といふ。  
つ。あまのあひひる昔述。河津菜草と也。まがたも。あまのあひひ  
ま河骨といふ物なりと也。或は山川乃産よしと也。  
昔まよと也。鳥羽の事。秦始皇父庄襄王乃時。あま  
の鳥もあまの卵の中にくらゝと也。あまを鳥羽と也。

さういひけ

あまのあひひる

あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。

蕙乃系とて。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。

奥山の日蔭乃うらまゝとて。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。  
或はさういひけ。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
或云文選云。僻昔有毛丘首。と云ふ。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。  
昔なりと云ふ。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。

あまのあひひる

あまのあひひる

命とて。あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。

あまのあひひる

あまのあひひる

あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。  
あまのあひひる。さういひけ。あまのあひひる。あまのあひひる。



春乃あけくよあけなまふるねたうこれ春乃らまさうら  
いしふふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
の洞ハ双洞。交若種土用ハ一越。秋ハ平洞。冬ハ盤渉  
洞なり

いくさじ

道賢王

梅よあけく流のちよとまなれいさたあしとんさん  
かちよあけく流乃あけくを春よあけくあまきいふいふいふ  
花と見はあけくはととと。侯加く勝き河内乃らま  
ずよいふ竹生留乃あけくはとととととととととととととととと

からまた

あははのん

阿保権ん

かたよあけくはとととととととととととととととととととととと  
あけくはとととととととととととととととととととととととととととと

伊勢

流乃あけくはとととととととととととととととととととととと  
水のまとい風れあけくはとととととととととととととととととととととと  
ふと也

かきやう

はととと

うしあけくはとととととととととととととととととととととと  
後の秋よあけくはとととととととととととととととととととととと  
と也。紙屋川ハ仁おもあけくはとととととととととととととととととととととと  
流くはとととととととととととととととととととととととととととと  
ふと也

よととと

昔乃あけくはとととととととととととととととととととととと

しるよはあわいひのふかきと かくたふと ぼりるに  
とまひ

かこれ

ちりみの

まきうしひまわりの活ぬのゆへにたれとてうらうら  
なひまの葉はなほらるるにひまのふたててか  
るたれこころいせ

かこころいせ

源かこころいせ

秋くれも月のうらたれやうたふひらと花とちりてとこころを  
秋を法本の実たる時されと月の種乃実ハたうと光  
とむらるうにちりてとこころと也月の種乃事益  
名苑云月申に河を河とよ種あるたふと百丈下に  
独の人あり樹とてと是と種男と云内バ云月

種ありふあしと。樓炭經云。岡浮提地。岡浮樹と一  
名波利實多。一名龍樹。と八万四千里。樹陰月申  
よ種よりうはりあしと。されど月の申れ種と  
よこたうと事也

百おき

清人不知

さしふあしとちりて風をねとくこころとこころ  
花とらふふとあしとちりて風をねとくこころとこころ  
とちりてははく風とちりてたふとちりてははく  
百おき。月より。百おきとちりて合さる事也  
よこたうと事也

さしふあしとちりて風をねとくこころとこころ  
花とらふふとあしとちりて風をねとくこころとこころ  
とちりてははく風とちりてたふとちりてははく  
百おき。月より。百おきとちりて合さる事也  
よこたうと事也



